

## 資料 1

No.	ご意見等	市の考え方等
1	<p>次のような施策が長続きするよう、側面からの支援をどう継続していくかが今後の課題だと思う。</p> <p>①人口減少が続いており、移住対策を強化している。大仙市への移住を考えている人に、市内での暮らしを実体験してもらうために、短期間住める大仙市魅力体験住宅を四ツ屋に設けた。</p> <p>②ふるさと納税に、見守り訪問を追加。郵便局の見守り訪問サービス。家族を思う温かい気持ちを形にする返礼品で、こうした物によらず、心のサービスが必要になると思う。</p> <p>③子ども食堂が8月初旬から丸の内オープンした。中学3年生までの子どもの食事が無料のようで、毎週水曜日午前中に実施しているようだ。主体などは不明だが、具体的な情報があれば良いと思う。</p>	<p>①の移住対策については、平成28年度に策定した「大仙市移住・定住促進アクションプラン」に基づく取組を進めてきた結果、第1回会議でお示ししたとおり、目標を上回る成果となっています。</p> <p>魅力体験住宅「YOUKOSO」は、市が四ツ屋地区の空き家を借り上げリフォームし、地域団体との協働により地域ならではの体験をしていただくもので、本年6月にオープンしました。</p> <p>これまでに延べ3組5名が利用し、内2名が本市への移住を決めています。</p> <p>なお、現在、アクションプランの改訂を進めているところであり、これまでの取組に加え、移住ニーズの分析などにより、より多くの移住者確保に向け、取組を進めることとしています。</p> <p>②の「郵便局の見守りサービス」については、6月に郵便局と締結した協定に基づくもので、県内では2例目となります。こうしたモノではない返礼品も含め、大仙市を応援してくださる皆さんに喜ばれる返礼品を企画していきます。</p> <p>③の「子ども食堂」については、「ビストロ ノモカ」が運営する「おおまがり子ども食堂」のことだと思います。ホームページによると、公的補助や民間の助成金を受けることなく、クラウドファンディング、いわゆる寄付や、ボランティアスタッフにより運営しているようです。また、ホームページなどで広く情報を発信しているようです。こうした取組は、まさに地域全体で子育てを支援する取組であり、このような取組が大仙市全体に広がることを期待しています。</p>

<p>2</p>	<p>「大仙市花火産業構想第Ⅱ期」中、目標1の施策1「大曲の花火関連ホームページアクセス数」について、ホームページに求められるものは、更新の頻度・魅力など様々な要素があると思いますが、大曲の花火に限らず、大仙市の情報発信を考えると、様々な機会で見られるのが、「どれを見たらよいかわからない。一元化して基本的な部分はこちらを見れば。というのがあったら良い」等の要望です。</p> <p>また、毎日花火が上がるまちとPRしていますが、「花火」のホームページ上で、大仙市で打ち上げられる全ての花火が閲覧できるか、またはリンクされていると、本当に花火のまちなんだなど実感できるのではないかと思います。自前でホームページを作成できない各地域の実行委員会に支援するなどの施策を考えてみてはいかがでしょうか。</p> <p>更に、花火のホームページから観光・ご当地グルメ・特産品などの紹介へ簡単にジャンプできるシステム構築で、観光客が花火鑑賞のついでに、それぞれ自前の観光コースを考えられるような魅力ある情報発信を目指していただきたいと思っています。</p>	<p>全国花火競技大会に関するホームページでの情報発信は、現在、チケット販売に関しては大曲商工会議所、交通規制や駐車場に関しては市、その他の観光については観光物産協会のホームページで情報を発信している状況であり、ご指摘のとおり、情報発信の方法として課題があることは認識しています。</p> <p>現在、このような状況を改善するため、統一した「入口」の役割を果たすページの作成に向け、実施体制やスケジュールの検討に着手したところです。</p> <p>「花火伝統文化継承資料館はなび・アム」のホームページでは、市内で開催される花火大会の開催日や概要を掲載しており、大会が近くなると優先的に表示される仕組みとしているほか、収集している花火資料のデジタル図鑑やまちあるきマップも掲載しています。また、市のホームページにも大会情報を掲載していますので、これらを結びつけるなど、上記の改善に合わせ検討していきます。</p> <p>このほか、花火観覧に訪れた方が、その他の観光や食を楽しんでもらえるよう情報をまとめ、花火情報とあわせて提供する方法も合わせて検討していきたいと思っています。</p>
----------	--	---

3	<p>市長が、会議開始から終了まで退席されなかった姿勢を見て、総合戦略策定にかける意気込みと強い決意をひしひしと感じました。</p> <p>あまりにも次元の大きな事柄で、ぴんとこないところもあり、説明を聞くのが精一杯であったというのが正直な気持ちです。何とか意見を述べられるよう、一緒に勉強したいと思います。</p> <p>大仙市が誕生してから 14 年が経過しました。この地域が元気で活気あるところにするため、何とか知恵を出し合っに行かなければと考えています。毎年 1,000 人の人口が減少していること驚きました。このまま進んでいくと大変なことになってしまいます。私なりに微力を尽くして行かなければと思っています。</p> <p>会議 2 回目からは、いろいろ議論しなければならぬときには、開会期間を早くするのも一つの方法ではないかと思えます。</p>	<p>本市の人口減少の状況や今後の推移につきましては、市長はじめ全職員が非常に強い危機感を抱いています。</p> <p>人口減少社会は、個人それぞれの価値観での選択が積み重なってきたものであり、一朝一夕では、その流れを変えられません。また、行政だけで解決できるものでもなく、市民の皆さんをはじめ、大仙市に関わる全ての企業や団体の皆さんの協力が必要であると考えます。</p> <p>人口減少は、これまで誰も経験したことがない事象です。大仙市の未来に、皆さんとともに責任を持ち、ともに考え、ともにより良い選択をし、つなげていきたいと考えています。</p>
---	--	---

<p>4</p>	<p>「魅力あるまちづくりと移住・定住の促進」については、平成 30 年 11 月からの「大仙市移住促進無料職業紹介所」の開設や、今年 6 月の管内行政、経済、教育関係のトップによる「仙北地域若者雇用サミット」の初開催により、今後の A ターン就職や移住定住促進の土台を築き、これまでの K P I も順調に推移してきているところですが、人口減少の歯止めのためには、高校生の段階での地元企業の紹介や地域の魅力発信が重要であり、特に、高卒県内就職率は 73.7%と全県トップであるものの、進学率が 6 割を越えている中、大卒等の管内企業への A ターン就職率が毎年 30%程度となっており、これを 50%以上とすることが喫緊の課題となっている。</p> <p>このため、A ターン就職者増にかかる更なるてこ入れのため、高校在学時の進学希望者への「企業説明会」への全員参加や、もう少し時期を早め、枠を広げるとすれば、横手市や由利本荘市では既に開催している中学生に対する「企業説明会」の実施なども取り入れていくべきではないか。</p> <p>これら A ターンによる若者の就職・回帰により、若者の出会い、結婚、出産につながり、それが「大仙の明るい未来へ～子どもの誕生を地域で応援～」と最終的には人口減少と抑制につながっていくと考える。</p> <p>会議の進行について、事前に資料を配付しているため、説明は概略、注意点、強調点のみで事足りるため、各委員の意見聴取の時間を十分に取っていただきたい。</p>	<p>現在、就職を希望する高校生に対する企業説明会を実施しており、今年度、進学希望者にも対象を広げ、実施を検討したところです。</p> <p>結果的に、高校側の理解が得られず、実施に至っていませんが、来年度の実施に向け、高校側と引き続き協議していきます。</p> <p>また、県外進学者の A ターンを促進するため、市内企業の情報や求人情報のほか、県内のニュースやイベントを配信するメーリングシステムを構築する予定であり、高校在学中に登録を促すことにより、県外への進学・就職者に積極的に情報を発信していきます。</p> <p>ご指摘いただいた中学生への企業説明会については、現時点で実施する予定は無いとのことですが、有効性等を研究しながら、検討していきたいと考えています。</p>
----------	---	--